



# 遠藤守レポート

## がん教育 本格検討

### 都立駒込が専門病院として全面協力



国のがん教育検討会議の委員を務める中川東大准教授(中央)の「がん特別講座」を見学(2008年11月8日、国立市)

がん教育の  
4つの効果

- 児童・生徒に「命の大切さ」や健康への関心を持ってもらう。
- 子ども達から父母等へ、がん検診を勧めってもらう。
- 教員自身が、がんを知り、自身の健康管理を実践してもらう。
- がん教育の実践を通じ、医師の成長にもつながる。

東京都は、都内の小・中・高等学校での平成29年度からの「がん教育」の実施にむけ、本格的な検討をはじめます。

先の都議会代表質問で、公明党の質問で明らかにしました。

がん教育の効果については、①児童・生徒に「命の大切さ」や健康への関心を持ってもらう②子ども達から父母等へがん検診を勧めってもらう——などが指摘されています(右参照→)。

がん教育の実施には、医師など医療関係者の協力が欠かせないことから、がん専門病院である都立駒込病院が全面的に協力します。

がん教育には、遠藤守都議もかねてから強い意欲をもっており、6年前から先進事例を見学するなど、都に実現を迫っていました。



©KOMETTO